

平成 20 年

総務教育常任委員会会議録

平成 20 年 11 月 5 日

福島町議会

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上原稿校正は初校しかできなく、誤字、脱字がありますことを深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、ご了承のうえご判読いただきたくお願いいたします。

福島町議会議長 溝 部 幸 基

平成20年

総務教育常任委員会

平成20年11月5日（水曜日）

◎調査事件

(2)第4次福島町総合開発計画前期実施計画（平成20年度ローリング）の状況について

◎出席委員（6名）

委員長	平野隆雄	副委員長	滝川明子
委員	佐藤卓也	委員	加藤雅行
委員	藤山大	委員	溝部幸基

◎欠席委員（0名）

◎出席説明員

町長	村田駿	副町長	竹下泰弘
教育長	丁子谷雅男	総務課長兼総務グループ参事	川岸勤
総務課企画グループ参事	土門修一	総務課企画グループ主査	住吉英之
財務課長兼財務グループ参事兼税務グループ参事	花田春夫	出納室長	本庄屋誠
教育委員会教育次長	木村修	教育委員会生涯学習グループ参事	盛川哲

◎職務のため出席した議会事務局職員

議会事務局長	石堂一志	議会グループ主事	吉澤裕治
--------	------	----------	------

(開会 午前10時00分)

○**委員長(平野隆雄)** おはようございます。

昨日に引き続き、直ちに、本日の会議を開きます。

本日の調査事件は、皆様のお手元に配付のとおりでございますので、ご了承願います。

これより案件の調査に入りますが、あらかじめ調査内容について、簡単にご説明いたします。

第4次福島町総合開発計画については、平成18年3月の定例会において、基本構想及び基本計画が議決され、平成18年度から前期実施計画の事業が推進されております。

当町の財政状況は、地方交付税の大幅な削減をはじめとして、景気低迷に伴う税収の落ち込みなどにより、年々厳しさを増しており、このたびの実施計画の見直しにあたっては、平成18年1月策定の「福島町自立プラン」による財政計画との整合性を図る観点から、ローリング作業が行われたところであります。

このような状況を踏まえ、当委員会としても、所管にかかる当年度以降の事業計画内容の把握に努めるべく、ローリング状況を調査し、その結果において、懸案事項等が生じる場合にあっては、次回以降における本委員会の所管事務調査としての対応に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

また、資料として、実施計画ローリング状況のほか、関連する「福島町自立プラン推進委員会」20年度第1回の検証結果の報告資料等も添付されておりますので、審議の参考に願います。

以上、簡単ですが、説明を終わります。

次に、調査の方法について説明をいたします。

まず最初に、説明員から資料の説明をいただき、その後、できるだけ現状の把握を主とした質疑を行います。

次に、説明員は退席をいただき、委員間で問題点やその対応策などの意見交換(討議)をしていただきます。

その後、最終的な委員会意見のまとめをし、議

長に提出することとなります。

以上、調査の方法を説明しましたが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○**委員長(平野隆雄)** それでは、調査事件2、第4次福島町総合開発計画前期実施計画(平成20年度ローリング)の状況についてを議題といたします。

これより、内容の説明を求めます。

土門企画グループ参事

○**企画グループ参事(土門修一)** 資料の1ページをお願いします。

調査事件2、第4次福島町総合開発計画前期実施計画(平成20年度ローリング)の状況についてでございます。

第4次福島町総合開発計画は、平成18年度から平成26年度までの計画期間ですが、平成18年度から平成21年度までの前期実施計画の平成20年度ローリングは、福島町自立プランとの財政推計の整合性を図り、計画をまとめております。

1. ローリング方針でございます。

平成18年度ローリング方針と同様に、次のとおりとした。

①自立プラン特別対策後の累積収支マイナス3億8,021万6,000円を超えることとなるようなローリングは行わないこと。

②基金の残高が自立プラン計画額より増となった場合は、累積赤字圧縮の財源とする。

③前年度の繰越金が生じた場合は、当該繰越金の2分の1相当額分をローリング財源とし、新規事業もしくは懸案事業の登載を行うとして、ローリング方針としております。

2. ローリングまでのスケジュールでございます。

6月30日まで各グループのローリング計画の取りまとめを行っております。7月22日から7月24日まで各グループとのヒアリングを行っております。このあと、町長はじめ三役へヒアリング結果を報告しまして、9月29日開催の福島町総合開発審議会において、ローリング計画の承認

をいただいております。

3. 平成19年度と当初計画との比較についてですが、(1)平成21年度までの総額でございます。平成19年度ローリング時点での平成21年度の事業費23億5,076万6,000円に対しまして、平成20年度ローリング後の事業費は26億3,224万1,000円となり、2億8,147万5,000円の増となりました。

財源内訳の一般財源では、2億4,320万4,000円となり、5,950万3,000円の減となっております。地方債では5億8,940万円となり、8,300万円の減。国・道支出金では11億1,624万6,000円となり、1,733万7,000円の減。その他では6億8,339万1,000円となり、4億4,131万5,000円の増となっております。

次ページに、(2)として年度別事業費の財源内訳を示しておりますので、ご参照願います。

次に、4の平成20年度ローリング事業一覧表でございます。

(1)として、新規登載事業。(2)として、変更のあった事業を表にしております。また、各常任委員会の所管ごとに分けて表示しておりますので、よろしく願いいたします。

まず、(1)新規登載事業のア、総務教育常任委員会所管分でございます。中学校教育用コンピューター整備事業、現在のコンピューターは導入後8年を経過し基本ソフトのサポートもすでに終了しており、保守部品の保有期限も本年の4月で終了しております。性能が低いために授業中に障害が発生することも頻繁にあることから福島中学校38台、吉岡中学校14台を更新するものでございます。総事業費は1,930万円でございますけれども、計画期間内の事業費は13万7,000円となります。

学校施設耐震化事業でございます。昭和57年以前の建物については耐震基準を満たしていない建物であり、今般の法改正に伴い耐震が義務化となったことから福島小学校南側校舎と吉岡中学校北側校舎の耐震診断を行うものでございます。こ

の事業につきましては開発審議会の承認をいただいたあと、10月17日に地域活性化緊急安心実現総合対策交付金制度の通知がございまして、また、北海道公立文教施設整備期成会からも耐震化の取り組みについて、交付金事業の100パーセント充当が可能とのことから今年度事業として12月議会において補正予算により事業を国の交付金事業として実施することで現在検討しているところでございます。この交付事業として、ほかに対象となる事業を現在模索している状況でございます。実施事業については、決まり次第議会へ提案してまいる予定でおります。

総務常任委員会所管分では2件、総事業費は305万7,000円、その全額が一般財源となっております。新規登載事業全体では、5件の総事業費が8,005万7,000円。そのうち、一般財源が645万7,000円となります。

4ページでございます。

(2)変更のあった事業のうち、アの総務教育常任委員会所管分でございます。

し尿処理施設整備事業、新しいし尿処理施設整備計画は渡島西部広域事務組合で策定中でございます。今年度から地域計画の策定を予定したところですが、全体的に1年先送りとなっております。

ごみ処理施設整備事業(設備機器オーバーホール)でございますけれども、事業費の見直しにより変更するものでございます。

次のテレビ中継局整備事業(白符中継局分)でございますけれども、テレビ中継局の整備について財源内訳が変更となるものでございます。事業費の2分の1を国庫補助金、残りの2分の1を過疎債で活用するとしてございますけれども、交付税で措置されない部分を民放各社5社で負担することとなりますので、町の負担は生じないこととなります。また、今年度実施設計を発注いたしております。

次の地域分団積載車更新事業でございます。事業費を見直すことによる変更でございまして、白符分団の車輛の更新を予定してございます。

救急車更新事業でございます。財源計画を再度変更するもので、従来の補助基準の3分の1相当額を施設整備事業債とし、残りの3分の2を過疎債で利用することとして総事業費も変更となっております。

防火衣更新事業10着の購入予定でございましたけれども、8着に変更するものでございます。

吉岡中学校温水暖房配管調整機器更新事業でございます。事業実施年度の見直しにより変更するものでございます。

各小中学校小破修繕事業、白符小学校が閉校となったことから額の変更を行うものでございます。

教職員住宅小破修繕事業、事業実績により事業費を変更しております。

市内LANサーバー及び市内業務用パソコン更新事業、備荒資金組合より借入れを予定してございますが、借入利息が変更となっておりますので事業費を減額してございます。

総務教育常任委員会所管分で変更のあった事業としましては、10事業、総事業費で717万2,000円の減。地方債で1,100万円の減。一般財源では775万円の減となりました。

変更のあった事業の経済福祉常任委員会所管分とあわせた合計では、25事業で総事業費2億857万7,000円の増。そのうち、地方債で1億8,060万円の増。一般財源が5,822万3,000円の減となりました。

次に、5の平成20年度ローリングによる後年度負担（起債）についてですが、平成20年度ローリングに係る起債額の増減による後年度負担の影響額について、交付税算入及び実質一般財源を表にしております。

以上、資料の1から5まで、第4次福島町総合開発計画のローリングに関する説明を終わります。

続きまして、6のその他としまして、(1)福島町自立プランの検証状況についてでございます。さきの10月14日に、平成20年度第1回福島町自立プラン推進委員会を終えておりますので、ご報告申し上げます。別紙資料を参照願います。

検証内容の主な内容について説明申し上げます。

資料の中、2ページ以降の案件1及び2について検証結果は項目毎に平成20年度の当初予算を効果額として自立プラン計画額との比較により達成したものをA、未達成をB、その他をCとしており、円グラフはその割合を示したものでございます。

14ページからの案件2では、歳入の効果、人件費の効果、事務事業など、案件1による効果と第4次福島町総合開発計画登載事業等の一部見直しによる効果を示しておりますけれども、15ページの下に5として、効果額の合計の増減を示しております。この中で、平成18年度では達成率97パーセントでしたが、平成20年度では計画額マイナス1億9,428万2,000円に対し、実績額はマイナス1億9,776万8,000円で、20年度目標を348万6,000円上回り、達成率は110パーセントとなっております。

案件3、自立プランの財政推計の変更については、資料18ページの(2)財政推計収支額の推移に示すように、計画当初では期間中の累積赤字を3億8,021万6,000円と見込んでおりましたが、今回の修正においては、平成21年度末までの計画期間中の赤字は解消されるものと推計しております。

同じ資料の24ページ、25ページの財政推計表を合わせてご参照をお願いします。

次に、19ページでございます。

(3)としまして、基金残高の推移を掲載しております。

さらに、20ページの案件4でございますけれども、検討課題項目の検証は自立プランの文章で表現されている課題について、9月30日現在までの結論が出たものをA、検討中はB、Cは未実施として区分しております。

次に、22ページをお願いします。

案件の5として、ふるさと応援基金事業について、ふるさと応援基金事業により募集いたしましたけれども、募集事業がなかったこと、寄付の状況が報告されたあと、ふるさと納税の受け皿とすることを理解していただくとともに寄付者への特

製品の贈呈についても高額とならないよう実施することとしております。

23ページ、健全化判断比率についての情報提供とLGWAN提供設備の更新について平成21年3月までに更新する必要がある状況を報告しております。

以上、自立プランの検証状況についての説明を終わります。よろしくご審議のほどお願いいたします。

○**委員長（平野隆雄）** 内容の説明が終わりました。

これより、質疑を行います。質疑は新規登載事業と変更のあった事業に分けて行い、最終的に総括的な質疑を受けたいと思いますので、よろしくをお願いします。

はじめに、新規登載事業にかかる質疑を行います。

佐藤委員。

○**委員（佐藤卓也）** 3ページのコンピューター整備事業についてお尋ねしたいと思います。事業費の総額が1,930万円ということですが、これまで8年間コンピューターを使用しましたが、その検証はされたのでしょうか。以前にも結構すごい金額で、3,000万円とか5,000万円とか費用をかけたと思いますけれど、その分だけ中学校でされたのか、私としては大変疑問ではないかなと思います。

それで、今回も1,930万円、パソコンを導入することに対しては別に、特に反対というわけではなく賛成ですけれど、ただ天秤にかけた場合に1,930万円分生徒が使ってくれるのかと、そういうのは大変疑問に思っております。もしよろしければ、この1,930万円の内訳を、また、もし見積もりとかあればそれを少しでも具体的な数字を教えてください私としては理解できるのかなと思います。

また、パソコン52台ですけれども、普通の町民だったら1,930万円もかからないだろうと単純な疑問が出てくると思います。一般にパソコンは、市販のやつですけれども1台10万円から

20万円、500万円とか、せいぜい1,000万円位の数字になるのですけれども、そのサーバー分とか主コンピューターといいますか、先生の使うコンピューターとか、そういったものがどれだけかかるのかという部分がちょっと不透明と思いますので、その点を説明していただければと思います。

それと、一般財源が13万7,000円ですが、次の年にかかるのかというのも教えていただきたいと思います。

○**委員長（平野隆雄）** 木村教育次長。

○**教育次長（木村修）** コンピューターの関係ですけれど、平成12年8月に更新してございます。当時から8年経過して、昨年と今年にかけて中学校でパソコンの検証をしてございますけれども、当初から見ますと今回1,930万円で52台、福中が38台、吉中が14台で見積もりは1社からもらっています。ほかにたくさん業者がありますけれども、とりあえず1社だけでございます。中身はパソコンが52台で、1台が17万3,000円。プリンターが3台。モノクロレーザープリンターが3台で1基12万8,000円、全部言いますか。

○**委員長（平野隆雄）** 暫時休憩いたします。

(休憩 午前 10時23分)

(再開 午前 10時23分)

○**委員長（平野隆雄）** 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

木村教育次長。

○**教育次長（木村修）** それでは、大きなものだけ申し上げたいと思います。ファイルサーバーについては2基、1基が30万2,200円、合計で60万4,400円。インターネットサーバー2基、1基が104万3,000円、合計で208万6,000円。総合ソフトウェアライセンスが3万9,800円、52台分で206万9,600円。アンチウイルスソフト2基、1基が30万円、合計で60万円。アップデートシステム1基で180万

円、2基360万円、大きなものは以上でございます。

それで、8年間使って、十分に生徒達は授業で活用したと、こちらのほうでは認識しておりますけれども、引き続いて今後も授業の中で、できる限り金額に合うかどうかわかりませんが、十分対応したと認識しております。

それと、13万7,000円ですけれども、これは1,930万円の内、備荒資金組合から利息1パーセントで5年償還、1年据え置きで借入れするというので13万7,000円を計上したいということでございます。13万7,000円ずつ5年間です。

○**委員長（平野隆雄）** 暫時休憩いたします。

(休憩 午前 10時26分)

(再開 午前 10時26分)

○**委員長（平野隆雄）** 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

木村教育次長。

○**教育次長（木村修）** 初年度が利息分の13万7,000円と22年度以降については約500万円ずつで25年度までです。

○**委員長（平野隆雄）** 佐藤委員。

○**委員（佐藤卓也）** 金額を聞きまして、結構かかるものかなと、見積もり1社からということで、ほかからも見積もりを取ると安い所が出てくるのではないかなと素朴な疑問として思いました。

それで、検証の結果が十分に対応したということですけども、僕も子供から聞いた限りでは、当初壊すから教室に入るなよと鍵をかけていた。当初の頃は使わなかったというか、使えなかったと生徒からは聞いております。最近やっと福島中学校の方とか吉岡中学校の方、中学校の方が中心として使っているということは聞いております。クレームというか、生徒からどういうクレームがあるかという、インターネットをやる部分に際してフリーズすると、なんでフリーズするかという、パソコンのメモリーが足りないだけなのです。

ですから、その部分だけ対応すれば別に不満というは特にない。エクセル、ワード、パワーポイントといったソフトは特にフリーズすることはありえないので、それに対してお金をかけるということは、ちょっと無駄かなと思います。おそらく生徒から障害の発生が頻繁だというのが次長から言われたのですけれども、多分それはインターネットのメモリーのせいではないかなと思っております。

それで、サーバーが結構な金額になっています。この辺も1社からではなく、ほかからも聞いてみると良いのではないのでしょうか。ソフトの面は、学校割引だともう少し安くなるはずですけども、定価のまま購入されるのかなと思います。中古品で対応するというのは可能でしょうか、その点をお願いしたいと思います。

○**委員長（平野隆雄）** 木村教育次長。

○**教育次長（木村修）** 今回は、1社のみで価格を設定しておりますけれども、こちらのほうとしてはあと2社から3社見積もりを取って、十分内容を精査したいと考えています。中古品についても可能かどうか検討してみたいと、今ここで即答できませんので、この辺も検討してみたいと思っております。

○**委員長（平野隆雄）** 丁子谷教育長。

○**教育長（丁子谷雅男）** 今、いろいろご質問があってその中でポイントとされていたのは、見積もりは基本的に確かに当然だと思います。たまたまこれは、予算というよりも計画を組むうえで、ある程度目安とする形の中で計画計上するというので立ち上げた部分でございます。当然、これは実施する段階になりますと、これをベースにした中で他社から入札の形になるでしょうし、そういう形でそのベースの部分は下がって行くと思っております。

ただ、実際に佐藤委員からも話があったようにフリーズする、確かにメモリーが足りない部分があるのですが、ワードなりエクセルの部分については確かにおっしゃるとおり関係ないと思います。機械そのもの自体も、役場の時もそうでしたけれ

ども、なんといいですか、作動停止の部分もあって全体の部分を買っていく形になると中古ではどうなのかなという部分は、素朴な疑問として考えます。

ですから、その部分については次長も話したように、検討はしてみますが基本的な考え方とすれば、これある程度単価は下がっていくでしょうけれども、入札によって、新しいものを設定していく部分では考えたい。その中で、実際にソフトなんかも学校では安いという話もございましたが、固めてやると当然安くなるという部分もあるでしょう。その部分については、当然入札執行した段階で、これをベースに安価なもので設定した中で購入するという形は変わりございませんので、その点はご了承願いたいと思います。

○委員長（平野隆雄） 佐藤委員。

○委員（佐藤卓也） 他社から見積もりを取って今後入札するにおいて、下がるということがわかりました。中古のものもどうかということですが、今大変不景気です。業者も多分、多少安くても売りたいという気持ちは多分あるのではないかと思います。新品ではなく1年遅れというのは、値段が大きく下がるのです。そういったものでも、十分に対応できるのではないかと思います。OSは、XPでも今後5年ぐらいは十分に対応できるかなと、私としてはもう少し安く、効率よくというふうに考えていただければなと思っております。

○委員長（平野隆雄） ほかに。

滝川委員。

○委員（滝川明子） 学校施設の耐震化事業についてお伺いいたします。昨日、福小と吉中のこの部分を見せていただきました。診断結果もあるのですが、耐震化するという以前に診断をしたと思うのですが、診断書を示していただいたのは福小だけですが、他の吉岡小学校等も診断したのでしょうか。

○委員長（平野隆雄） 木村教育次長。

○教育次長（木村修） 今回は北海道教育委員会のモデル事業として一次診断をやってもらおうとい

うことで、たまたま福島小学校、それから吉岡中学校と、吉岡小学校につきましては、学校自体建築年度が3つに分かれていますけれど、全て57年度以前ということで、今の統廃合の絡みもありますので、今回は福島小学校と吉岡中学校を道教委にお願いしたわけです。そのうち、福島小学校だけが鉄筋コンクリート造りということで、道教委のソフトがそれなのです。たまたま吉岡中学校が鉄筋造りということでソフトが対応できないので、今回は福島小学校だけということでございます。

それで、3ページに載っておりますけれども、こちらのほうで吉岡中学校の分を12月に一次診断を補正して対応したい。その結果によっては、二次診断もありえるということなので、福島小学校につきましては昨日お話し申し上げましたけれども、旧給食配膳室の窓ガラスのみが30年経過するというので、そこだけ壁にすると一次診断をクリアするので、二次診断等はやらなくても良いという結果でございます。

○委員長（平野隆雄） 滝川委員。

○委員（滝川明子） 吉岡小学校はなぜしなかったのでしょうか。私どもが総務教育常任委員会で吉小を何年か引き続いて視察をしたということがございました。それは屋根の雨漏り対応など、具体的には実施していただいたわけですが、しかし、子供達が登下校に通る玄関の上を見たら壁の亀裂等大変気になる部分が幾つかあったと思うのですが、もうすでに直していたのでしょうか。私の記憶では、まだ手を付けていなかったかなと思うのです。

例えば、校章を直すとか、かなり細かな部分での要望なども父母からあって対処されたということはあったと思うのですが、モデル事業といいましても教育委員会が提出することによって今回の事業が進められたと思うのです。そういった意味では、吉小をモデル事業の対象に入れるとか対応等を考えなかったのでしょうか。私が心配しているようなことは、実際に今クリアされているのでしょうか。

○委員長（平野隆雄） 木村教育次長。

○教育次長（木村修） 今回のモデル事業は、たまたま福島町であれば学校が4校あるのですけれど、全てあげてやっても、1町村について1校のみという道教委の方針でございますので、うちのほうとすれば最低でも福島小学校、あるいは吉岡中学校、吉岡小学校もありますが、そのうちの1校だけお願いしたいということで、うちと渡島管内では森町とかありますけれど、それも1町村に付き1校ということでございますので福島小学校のみが該当になったということです。

吉岡小学校については、2、3年前から校舎の壁が老朽化で補修していただきました。その後も正面玄関の上のほうで、若干コンクリートが剥げているとかがございまして、一時補修しましたが全面的に改修したわけございませんので、これから財源を見ながら少しずつ、子ども達に影響がないように修繕していきたいと考えています。

ただ、吉岡小学校も中学校の統合がもし可能になれば吉岡小学校を吉岡中学校のほうに移転するという保護者からの話もございまして、うちのほうもそれに向けて取り組んでいるところでございますので、ご理解願いたいと思います。

○委員長（平野隆雄） ほかに。

溝部委員。

○委員（溝部幸基） パソコンの関係ですけれども、確かに予算に向けて1回目の見積もりを取った段階と、このあと当然入札なりに向かって競争ということになっていくから安くなっていくということですが、そういう見積もりであってもできるだけ状況に合わせて設定して行くことが大事だと思うのです。どうしても最初に金額が出せると、そこが1つの目安になるということになると思うのです。

それで、常に話題になるのですが、半年なり1年毎にどんどん機械が新しくなっていくという状況は、いまだに変わらないわけです。どんどん開発が進んでいくということで、そこで古いものは実勢価格の中でいわゆるオープンという形で、どんどん安くなっているという状況が片一方である

のです。少なくともメーカーから出てきたものを、サーバーも含めて全て対応するというのは難しい部分があるのだと思うのですが、少なくともパソコンなりプリンターについてはインターネット等で見えていくと、それなりにパソコンの能力、プリンターの能力を対比したものというのは一目瞭然に出てくるわけです。

そういったものが、今説明したものの、例えばプリンターが12万8,000円ですか、パソコンが17万円で、これは能力とかそういうものがわかりませんから、ちょっと想像がつかないのですが、多分見ている限り、私は実勢価格とかオープン価格で見たら、相当高いものでないかなという気がするのです。その辺も含めて、最初に見積もりをお願いする段階で、ある程度こちら側がそういうものを見据えて、お願いするということにしないと、どうしても高上がりになってしまうということがあるのだと思います。できればパソコンなりプリンター、もっとサーバーの部分も含めて、そういう容量に合わせた実勢の価格みたいなものを見たほうが良いのではないかと、相当違ってくるのではないかと思いますので、それはお願いしておきたいと思います。

もう1つは、現在使っている部分で活用できるものはないのかどうか。昨日は、指導者用のパソコンの部分については更新をしていると話していましたが、それ以外にソフトの部分を含めてやると結構な金額になるので、全てが新しくということにもならないと思います。そういう部分の状況把握、それと佐藤委員の質問にもあるのですが、学校の生徒が要求する部分について、パソコンの能力がどの程度のものに対応できるのか。今の機種もなんだかんだ言って、8年間使ったということからすれば、対応できるのであれば中古の部分、ある程度の数は生徒に対応する能力に応じて対応できると思うのですけれども、その辺はどう考えて対応されているか聞かせていただきたいと思います。

それと、学校の耐震の部分ですが、さきほど土門参事の説明では、今回2種類の補助の部分があ

って、できればその対応でしていくということなので、ここで予定した部分でなくて、今年度中にある程度ものは対応するような方向で検討したいと聞いたのですが、どうも土門参事の説明と木村次長の説明がよくわからない。もう1回、その新たな2つの補助の部分の対応含めて、福小なり吉中の部分がどうなっていくのか。20年度でどこまでやって、21年度でどうなのか。それで、計画はこうだけれども実質的には今進んで行く方向としては、どう変わっていくのか、説明をしてもらえたいと思います。

○**委員長（平野隆雄）** 暫時休憩いたします。

(休憩 午前 10時47分)

(再開 午前 11時00分)

○**委員長（平野隆雄）** 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

木村教育次長。

○**教育次長（木村修）** 中学校のコンピューター関係で溝部委員から話がありましたが、現在のパソコンで活用できるものがあるかどうかについては、パソコンの能力等いろいろありますけれども再度学校に行き、あらためてパソコン等が可能かどうか調査してみたいと考えております。

それによって、中古のものでできるものであれば、それらも含めて再度検討して精査したいと考えております。学校の耐震ですけれども、3ページの292万円につきましては、最初の段階で二次診断までの分を計上してございます。今回、道教委で福島小学校の南側校舎を行いましたので、その分が抜けて、実質的には吉岡中学校の二次診断の分だけ予定してございます。吉岡中学校の耐震については、国の地域活性化緊急安心実現総合対策交付金というものがあまして、これが3月いっぱいということなので、そちらに計上しまして、もし100パーセント付きますとここに計上している金額がゼロとなります。

いずれにしても、採択は12月の補正予算に組んで行いたいと、福島小学校を昨日見ていただき

ましたけれども、壁の部分は単費ということで、修繕費を55万円、これも12月に補正して行いたいと、金額は別にして対応したいと考えております。

○**委員長（平野隆雄）** 土門企画グループ参事。
○**企画グループ参事（土門修一）** さきほどの学校耐震化の部分の説明の中で、地域活性化緊急安心実現総合対策交付金制度について申し上げましたけれども、この事業について開発審議会で、ここに記載のとおり承認をいただいたところでございます。その後、10月17日に地域活性化緊急安心実現総合対策交付金制度というものの通知がございました。その制度の中では各町村に対して交付金を500万円から3,000万円の範囲内で予定すると、対象事業としては国の補助事業、もしくは要項に掲げる事業、もう一つは地方の単独事業、ただし20年の8月30日以降に実施される事業に限るというものでございます。

それで、実際には地方単独の場合は平成20年8月から平成21年の3月までの期間で、必要があれば繰越明許ということでございます。実際の事業の提出期限は11月17日までとなっております。

もう一つは、その事業制度の通知を受けまして、北海道公立文教施設整備期成会からの通知で耐震化の取り組みについては、100パーセント充当が可能だということを期成会で確認しましたという文書もいただいているところでございます。

そのことから、今回の耐震化の事業については100パーセント交付金対応になるものということで、12月議会において補正計上ができる方向での検討を進めています。その他の事業についても交付金で対応できるような部分については、ただいま検討しているところでございます。交付金の額について、国のほうからは500万円から3,000万円としてございますけれども、当町の部分を算定した額の通知につきましては1,570万1,000円という金額で通知されてございます。

もう一つ、資料のご訂正をお願いしたいと思

ます。学校耐震化事業の事業内容の部分でございます。地震防災、実際は対策特別措置と載せるべきでございましたけれども地震防災のあとの「多」という文字が余分ですので削除をお願いします。

○**委員長（平野隆雄）** 溝部委員。

○**委員（溝部幸基）** コンピューターの関係については、今実際使えるもの云々と部分だけの答弁であとは一切何も言わないのですけれども、基本的には今の中学校自体、今の設備というかコンピューターそのものを、どこまで使っているかと言うのが非常に大事なことだと思います。ソフト的にはワード、エクセル、パワーポイント、そして佐藤委員の質問にもありますように多くはインターネットの部分の容量が不足するというので、フリーズするケースが多いのだと。そこが程度解消すると今のコンピューター、パソコンでも十分とは言えないけれども、とりあえずはいいという感じの話もあるわけです。

ですから、8年経っているわけですからパソコンそのものも取り替えなくてもいいということにはならないと思いますけれど、それにしてもやはり学校が教育として、どの程度パソコン、コンピューターを使うかということも、ある程度把握したうえで、その能力に応じた設備をすることが大事だと思うのです。我々もパソコンなりやっていますけれども、能力、容量も含めて2割ぐらい使っていたらいいところかなという感じです。学校が要求する、期待する部分ということからすると私はまだ、幅広くもっと安価な部分の設備投資が可能だと思うのです。

まず、さきにその辺を学校側と良く話し合いをして、どんな仕様の機種が妥当なのか。そこを検討していかないと、その部分を含めて明解にしたら、多分新しいもので色んな能力のある機種ということになるのだと、だからこの金額になっていくと思うのです。市販でいろいろ出てきているものからすると、一般にそれなりの使えるというものが、最近新聞でどんどん出ています。6、7万円かけると、それなりに相当の能力のものが対応できる。私は、これはまだまだ最初が肝心だと

思うのです。入札する段階で落ちますからなんていう話をする、甘く見られますから、最初の見積りの段階からシビアに見て、機種の選定能力も含めて、その辺も学校のほうの要求に合うものは何なのかということからすると、もっと幅広く、もっと安く検討できるのだと思うのです。

それで、次長が現況の中で使えるものがどうか、これから検討して見ますということなので、合わせて学校が要求する部分はどのような機種でどこまでの容量が、そしてサーバーについてもインターネットの部分なのか、ほかの部分なのかも含めて、どのようなフリーズの状況もどうか、どのようなトラブルがあるのか。その辺も確認をして、機種の選定等も含めて、もう一度基本になる見積もりをしていただくことをお願いしたいと思えます。

それと、耐震の部分については、今の説明ではほとんどかからないと、現実に55万円と口を滑らせたのかどうか分からないのですが、そのぐらいで大体この部分に対応できるというような、今の時点の解釈でいいのかどうか、その確認だけでもう1回します。

○**委員長（平野隆雄）** 木村教育次長。

○**教育次長（木村修）** 福島小学校については、一時診断は壁を直すことでオッケーという判断になります。吉岡中学校については、一次診断ができなかったもので、民間の方をお願いするということで、その結果によって二次診断がありえるということですが、金額はここでは控えさせていただきます。

○**委員長（平野隆雄）** 丁子谷教育長。

○**教育長（丁子谷雅男）** パソコンの部分については、溝部委員、佐藤卓也委員からも話がありましたように、実際にパソコンを自分も使っている状況もあります。確かにインターネットを中心に考えた場合にOSはXPでもいいですし、その代替に逆に溝部委員からも話があったように、もっと幅広く生徒達が使いやすい環境のパソコンを整備するにはどうすればいいのかという部分にポイントをおいて、とりあえず計画の中ではこういう

設定をしてありますが、学校ともうちょっと詰めた中で整理をし、予算計上する段階では中身を洗って対応したいと考えております。

○委員長（平野隆雄） ほかに。

（「なし」という声あり）

○委員長（平野隆雄） なければ、次に変更のあった事業にかかる質疑を行います。

滝川委員。

○委員（滝川明子） し尿処理施設整備事業、それからゴミ処理施設整備事業は、2つとも広域、あるいは西部四町ということでの関わりでございますが、し尿処理施設整備事業については1年先送りという説明を受けました。構成町の下水道や合併浄化槽もあるのでしょうか、そういった取り組みや進行と合わせて検討しなければならぬものがあるのかなと推察するわけですが、もう少し進めていただければと思います。

それで、1年先送りにしたけれども、では1年後には具体的にはどんな形で話が進んでいるのか。それから、ゴミ処理のほうもさらに大きなクリーン渡島の関係だと思えるわけですが、これからさきも相当見直しが出てくると思われるわけですが、その辺りの説明をもう少しいただきたいと思います。

○委員長（平野隆雄） 竹下副町長。

○副町長（竹下泰弘） このし尿処理施設整備事業につきましては、先般全員協議会の中で説明させていただいた内容と、1つも変わっておりません。計画の中では、平成20年にまず調査をやるということで広域事務組合の中ではある程度理解をいただいたわけですが、まだ検討の部分もあるし、各町の財政問題もあると、いろいろな意見を広域事務組合としては、そういったことを含めて1年、調査費の着工を先送りすると先般も議員協議会の中で説明をさせていただいたところでございます。

それで、単純に20年度事業を21年度に送りますけれども、その内容を精査した結果700万円が済むということで、下水道、浄化槽の部分については構成2町の内ですでに下水道の事業が走

っているということもあります。松前町においても合併浄化槽の指示を進めておりますけれども全体的に合併浄化槽、当町も含めて、まとまるかというとなかなかまとまりきれません。汚泥だとかそういうものを受け入れなければなりませんので、そういう受け皿としても、このし尿処理施設では合併浄化槽での受け入れもできるということを含めて変更させていただきたい。これからまだいろいろな議論があると思いますが、我々としてもより安価なものを、経済的にそれがこれからエコの時代になりますので、燃費の部分も含めて検討しておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

ただ、このゴミ処理施設事業は、広域連合ではなくて、渡島西部広域事務組合のオーバーホールの組み替えとオーバーホールするものの組み替えをするというだけで、事業費については同じ2,953万9,000円です。定期検査だとか隔年の検査がありますので、その部分の定期検査に充当する分112万2,000円の一般財源が増えたということでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

○委員長（平野隆雄） ほかに。

溝部委員。

○委員（溝部幸基） この中で特に大きく変わっているのが広域の部分とは別としても、消防分団積載車の更新と救急車の更新の部分ですが、その内訳をもう少し詳しく説明していただきたい。300万円、500万円ということで、内容が積載車そのものの値段が高くなったということではないと思います。当初の計画と機種とか、そういうものが200万円ですから相当違います。救急車も同じように4,000万円が3,600万円ということで1割下がっています。特に機種のなもの、設備等を含め変えたということなのか。実勢価格そのものが変化をして実勢に近いような形にしたということなのか、その説明をお願いしたいと思います。

それと、一番下の備荒資金の利息の関係で1.3が1パーセントということですが、利息の関係

ではここだけが変わったということで取っていいのですか。利息だけで、ここは載ってきているので経済の方もないものですから、利息の関係ではここだけが変わったということで捉えて良いのかどうか、その確認だけをお願いします。

○**委員長（平野隆雄）** 竹下副町長。

○**副町長（竹下泰弘）** まず白符分団ですけれど、前に掲載していた、要するに1トン、2トン、3トンとありますが、そのトン数の部分を見積もりいただいたときには、少ないトン数のものでいただいて、再度見積もりを徴収しました。1トンから3トンくらいまでの部分の対応ということで、500万円になりました。

それで、救急車の更新事業ですが、これも前は過疎債の充当にならないということで単独でやろうということであったのですが、それを先送りしました。中身を見ていただければわかりますけれども、その時点の見積もりと消防署でいろいろと中身を検討して、見積もりをいただいた結果、400万円の減になった。一応過疎債の部分の1,290万円が減ったということで、一般財源1200万円ということでございます。

○**委員長（平野隆雄）** 土門企画グループ参事。

○**企画グループ参事（土門修一）** 庁内LANサーバーの庁内業務用パソコン更新事業の部分でございますけれども、備荒資金組合から資金調達をして充てる部分ですが、従前の計画の中では利率を1.3パーセントとしてございましたけれども、1パーセントになるということでございますので、その1パーセント下がった分の7万7,000円の一般財源が下がるということでございます。

今回の部分については、これだけだと思いますけれども、ほかにも備荒資金組合で充てる施設整備の関係の部分については、利率を1.3でみている従前の利率を1パーセントに直すということでございます。

○**委員長（平野隆雄）** 溝部委員。

○**委員（溝部幸基）** 備荒資金の関連では今のところないと、それ以外の備荒資金組合の部分でも金利が変わって云々ということはないということ

で捉えていいのですね。数字的に7万7,000円程度ですけれど、ここまでシビアに見ているということは、ほかの借り入れしているものも含めて変更があった場合に出てくるのかなと思って、それ以外はないと捉えて良いのですかという質問なのです。

それと、救急車の関係で去年、いわゆる国庫補助金事業の廃止で1回見直ししているのです。その段階で1回やっていると思うのです。1年も経たないで、額を変更というのは、その段階での見積もりの取り方そのものがどうなのか、それは、当然参考の見積もりでの対応だと思うのですが、その辺がどうかと思います。

また、去年の段階で地域分団積載車の部分が出てこなかったのですけれども、その部分ではどうなのか。これも早い段階で300万円とみて、そのトン数を含め竹下副町長の説明のとおり精査した段階では、トン数が足りなかったということだったのか。最初の見積もりそのものが間違っていたということなのか。去年出てきてないということですから、その以前、12年の段階ですでに出てきていたものか、その辺を聞かせてもらいたいと思います。

○**委員長（平野隆雄）** 花田財務課長。

○**財務課長（花田春夫）** 前段の庁内LANサーバーに限って、備荒資金の利率の部分、確かに事業としては、この年度部分ではこのLANサーバーの部分だけでございます。

ただ、利率の関係で、そのほかの借入れの部分は影響がどうなのかというお話ですけれども、おそらく起債のことを言っているのかなと受け止めたんですが、そのとおりでよろしいですか。起債については、政府資金が変われば、当然今の金融の場面によっては変動がございます。私どもは、年度末ぎりぎりに借入れをして、1、2ヶ月の動向の中、利率の低い部分で借入れしているということです。これについては当然変動があるものと理解しておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

○**委員長（平野隆雄）** 竹下副町長。

○副町長（竹下泰弘） 分団の車輛の分でございますけれども、さきほど説明しましたけれども200万円増えているということは、要するに乘る人間が6人、前は3人くらいで後ろに器具を積むということだったのですけれども、分団といろいろ協議したところ、6人乗りがぜひとも必要だということも含めて、見積書を精査した段階でこういう形になりました。

それから、今の救急車の更新事業ですけれども、企画グループで個別のヒアリングをやったあとに三役の協議ということで、私も見せてもらって、消防署に行ってきました。中身を精査したところ、もう少しきちっとした補助事業でやろうが過疎債でやろうが事業としてやるについては、もう少し見積書の精査もきちっとしなければだめだということで注意をしてきたところでございます。

そういったものについては私どものほうから目を通して精査をしていきたいと、この大きな部分は救急車の部分で日進月歩でございまして、前にこれだけ艤装かかりますよと言った部分が、1年、2年のあいだでもかなりコンパクトになって、いい機械も入るといような話も聞いてあります。その中身をもう1回こちらで精査しますので、そういうことで確かに見積書の徴収の仕方にちょっと甘さがあったかなと感じて反省をしているところであります。

○委員長（平野隆雄） 溝部委員。

○委員（溝部幸基） 分団の積載車の部分は、今みたいに最初は3人乗りだったものが、消防団と相談をして、実態が6人体制を要求するのだということを、最初に説明しなければわかりません。最初の見積もり云々の話もしていない、考え方そのものが変わったという話ですから、そこをきちっとしなければならぬ。

ただ、私はこれだけシビアに予算を自立プラン含めてやっている段階で、2つ並んで出ているものですから、たまたま救急車のほうで400万円浮いたから、同じ消防の予算で200万円を上積みしてなんていう見方をされがちです。最初に3人体制でやったものが、なぜ6人体制かという部

分の説明だって、私はある程度納得しない。これだけ人口減少の中、あるいは消防体制を吉岡分遣所の体制を常備の形を無くして、今のような形になっているという状況もあるわけです。

それで、そういう方向性からしたら違う方向なわけですから、やはりそういった方針、考え方が変わったらその部分を最初に説明して、予算の考え方を言わなければだめだと思います。もう1回その辺について、再確認を含めて話をしてもらいたいと思います。

○委員長（平野隆雄） 竹下副町長。

○副町長（竹下泰弘） 最初の説明というのは、やはりトン数、要するに人数の変更になりますので、そういう部分で含めて話をしたつもりでございます。今言ったように分団の車と救急車と金を相殺するような形は、私どもとしては、そういう考え方は毛頭ございません。ただ、1つの事業を見直した結果、こういう形になったということでございます。

白符分団につきましては、これから消防署の人間がいろいろと確保できなくなって分団に願う部分が多いという部分を含めまして、吉岡分遣所も引き上げて臨職で対応させてもらっていますが、それらも含めて消防署といろいろ詰めた結果、そういう話になったと考えております。もう少し当初からお互いに福島署と消防団ときちんと整理して、予算を要求するべきだと思っております。その点は、重々反省して今後対応していきたいと思っております。

○委員長（平野隆雄） ほかに、質疑ございませんか。

（「なし」という声あり。）

○委員長（平野隆雄） なければ、最後に全体を通して、総括的な質疑があれば受けたいと思います。

○委員長（平野隆雄） 溝部委員。

○委員（溝部幸基） 1点だけ、財務課長に自立プラン含めて検討して大変厳しい状況の中で、こういう状況の中、ある程度クリアして目標に向けて来たのですが、私は基本的に歳入の部分では、

地方交付税の部分の対応と、歳出の部分では除雪の関係、雪が降らなかったということでの対応というのが大きな要素だと思っています。その部分の捉え方として今の時点で来年度に向けて、交付税の部分の情報とか、あるいは国からこういった動きの中ではいろいろな情報が飛び交ってきて、期待する部分もあるわけですが、堅実な状況も含めて20年度の部分の状況を踏まえて、21年度に向けての展望といたしますか、そういう財政状況について、今時点での考えがあればこの機会に聞かせていただきたいと思えます。

○委員長（平野隆雄） 花田財務課長。

○財務課長（花田春夫） 21年度の予算編成に向けての考え方も含めてお話されたと思うのですが、まず、20年度の財政状況、今の現時点での自立プランの中でお話をさせていただきました。当初は、財調を1億円取り崩す予定の予算を20年度は組み立てております。

さきほど委員からもありましたように今年の交付税は、私どもが思っていたよりちょっと多かったものですから、その部分でいきますと、このまま何もなければ財調を取り崩すことなく運営できるものろ考えています。加えて、その部分は9月でしたか、5,000万円積み立てしておりますので逆に増える可能性があるのかなと思っております。21年度の財政は、昨今の金融市場の混乱した状況を見ますと、まだ不確定な要素が多分にあります。

もう1つは、法人税が40パーセントから落ちているという情報も現段階で入っていますので、これは取りも直さず交付税の算定の中には法人税も当然入っております。5税の中に法人税も入っております。その辺は、1つ心配なものがあるのかなと思えます。

それと、本年度の地方交付税の中で地方再生対策費ということで、新しいメニューといたしますか、算定根拠が出ました。その算定根拠というのは、前にもお話しましたがけれども、法人税の県単位の部分を寄せ集めて地方対策のほうに回しているという実情がありますので、まずその1つが不安で

す。法人税の落ち込みで、それが果たしてどの程度、今年は6,030万円だったでしょうか、いただきましたけれども、その額については減るものと予想はつきます。経済対策ということで、第一弾、第二弾があるようですので、その辺はある程度落ち着いた金額でくるのかなと推測しておりますが、不安材料はいっぱいあります。

それと、今回の第二弾の経済対策の中で来年度の見込みとして道路特定財源、ご承知と思えますけれども、それを国の取る分なのか、地方に回している分なのかわかりませんが、1兆円交付税として算入するという情報が流れています。国の取る分なのか、地方に回す分なのか、その辺はまだはっきりと総務省のホームページの中に入っても資料として出てこないのです。その辺がいい意味ではプラス思考の部分あるのでしょうかけれども、逆に特定財源、交付されている部分が減らされて交付税でくるのか。その辺は、これから推意をしていきたいということで、大変今年の予算編成は大変面倒な形になるのかなと思えますけれども、努めてその辺は情報収集して、健全な予算編成を組みたいと思っております。

現在の情報とすれば、まだそのような段階ですので、これがまた12月時点で詳しい情報も流れてくると思えますので、何かの機会にご報告できるかと思えますので、よろしくお願ひしたいというふうに思えます。

○委員長（平野隆雄） ほかに、質疑ございませんか。

（「なし」という声あり。）

○委員長（平野隆雄） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

説明員の方は退席願ひます。ご苦労様でした。

○委員長（平野隆雄） 暫時休憩いたします。

（休憩 午前 11時36分）

（再開 午前 11時37分）

○委員長（平野隆雄） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、冒頭の調査方法で説明したように、次に、問題点やその対応策などを委員間で意見交換（討議）を行います。

（「なし」という声あり）

○**委員長（平野隆雄）** お諮りいたします。

ただいま議題となっております、調査事件2に関する本委員会の取りまとめ及びその調整については、委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○**委員長（平野隆雄）** ご異議なしと認め、調査事件2に関する意見の取りまとめ及びその調整は、委員長に一任されました。

以上で、調査事件2を終了いたします。

○**委員長（平野隆雄）** 暫時休憩いたします。

（休憩 午前 11時37分）

（再開 午後 12時00分）

○**委員長（平野隆雄）** 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、3の次期定例会後の閉会中の所管調査事務事件は、第2回定例会会期中において委員会を開催し、決定したいと思いますがご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○**委員長（平野隆雄）** ご異議なしと認め、第2回定例会会期中に委員会を開催し、決定したいと思います。

次に、4のその他について、何かございませんか。

（「なし」という声あり。）

○**委員長（平野隆雄）** 以上で、本日の案件の調査は、終了いたしましたので、総務教育常任委員会を閉会いたします。

どうも、ご苦勞様でした。

（閉会 午後 12時02分）

福島町議会委員会条例第27条の規定により署名する。

総務教育常任委員会委員長